

特集

「やりがい」を感じることができる職場を考える

生活費を稼ぐために働いている、という人も多いかもしれないが、一人ひとりが働くことにやりがいを見出すことで、組織の雰囲気向上し、働き続けたいと思える組織を創りだしていくことができるのではないだろうか。「働き方改革」として人事制度や勤務時間の見直しも必要なことではあるが、働き甲斐を感じることができる組織風土を築くことも同時進行で進めていかななくてはならないだろう。

今回は、やりがいをもって働くことができるように試行錯誤されてきた企業の人事制度や研修制度について紹介する。まずは、パンを通して暮らしを提案する株式会社広島アンデルセン様。アンデルセングループには、生協の取引先でもあるタカキベーカリーも入っているため生協との関わりも深い会社である。興味深

い研修として、小麦の生産からパンの製造までを1年以上経験する研修がもうけられていることがある。次に、関東の生協の宅配業務を担当している株式会社アシスト様。2014年に『くらしと協同』で取り上げ、今回はより詳細な内容をお話いただいた。そして、おしゃれなイメージを持つ方も多い株式会社ロフト様の取り組みについて、社員がロフトを好きになるような工夫をご提示いただいた。

人事制度だけでなく、コンセプトや研修内容について、生協でも参考にできることが多いのではないだろうか。是非ともご一読いただきたい。

「くらしと協同」副編集長 青木 美紗

1. アンデルセングループにみる時代の変化に応じた経営実践と理念教育（木下 和紗）
2. 生協宅配における人材育成への想い
— 「生協人よりも生協人らしい」人材をめざす株式会社アシスト—（近間 由幸）
3. 個性をもった店舗を生み出すロフト社員一社員のニーズに応える働き方の模索と育成
（下門 直人）